

三井住友・ライブビュー・バランスファンド30（安定型）

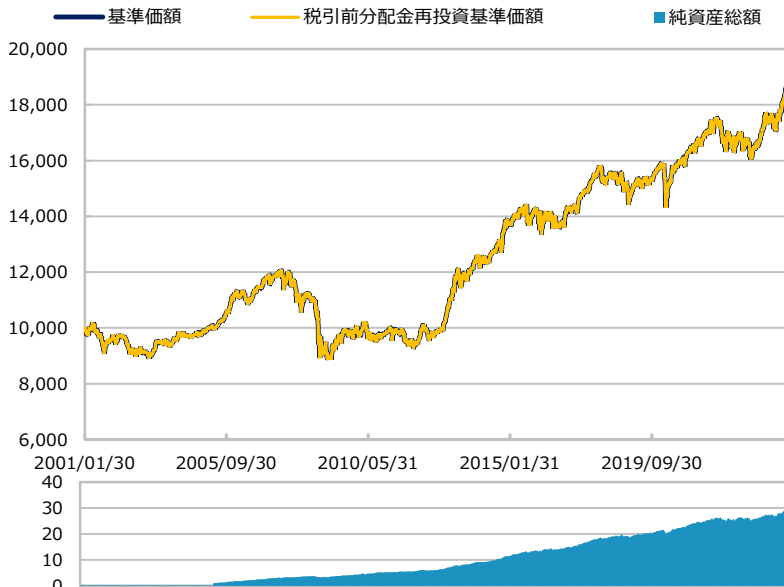
【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

ファンド設定日：2001年01月31日

日経新聞掲載名：LV30

基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	18,833	+287
純資産総額（百万円）	3,032	+69

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

	基準日	ファンド
1 カ月	2024/02/29	1.5
3 カ月	2023/12/29	6.0
6 カ月	2023/09/29	8.1
1 年	2023/03/31	12.5
3 年	2021/03/31	13.0
設定来	2001/01/31	88.3

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第19期	2020/01/30	0
第20期	2021/02/01	0
第21期	2022/01/31	0
第22期	2023/01/30	0
第23期	2024/01/30	0
設定来累計		0

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（%）

	基本配分	当月末	基本配分との差	前月比
株式計	30.0	31.4	+1.4	-0.3
国内株式マザー	20.0	20.7	+0.7	-0.2
外国株式マザー	10.0	10.6	+0.6	-0.2
債券計	65.0	64.7	-0.3	+0.4
国内債券マザー	45.0	44.7	-0.3	+0.0
外国債券マザー	20.0	20.1	+0.1	+0.4
現金等	5.0	3.9	-1.1	-0.1
合計	100.0	100.0	0.0	0.0

※ 各組入マザーファンドの正式名称は4枚目以降をご覧ください。

基準価額の変動要因(円)

	寄与額
国内株式	+198
外国株式	+60
国内債券	-13
外国債券	+40
為替	+18
分配金	0
その他	-15
合計	+287

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。
 ※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・ライブビュー・バランスファンド50（標準型）

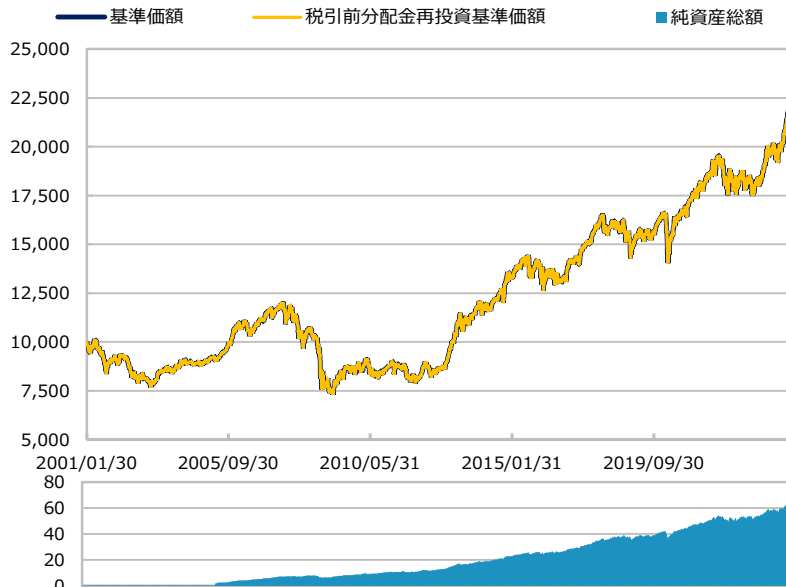
【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

ファンド設定日：2001年01月31日

日経新聞掲載名：LV50

基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	22,197	+513
純資産総額（百万円）	6,607	+159

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

	基準日	ファンド
1 カ月	2024/02/29	2.4
3 カ月	2023/12/29	9.7
6 カ月	2023/09/29	12.3
1 年	2023/03/31	20.4
3 年	2021/03/31	23.7
設定来	2001/01/31	122.0

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第19期	2020/01/30	0
第20期	2021/02/01	0
第21期	2022/01/31	0
第22期	2023/01/30	0
第23期	2024/01/30	0
設定来累計		0

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（%）

	基本配分	当月末	基本配分との差	前月比
株式計	50.0	52.6	+2.6	+0.7
国内株式マザー	30.0	31.4	+1.4	+0.6
外国株式マザー	20.0	21.1	+1.1	+0.0
債券計	45.0	43.1	-1.9	-0.4
国内債券マザー	30.0	28.9	-1.1	-0.3
外国債券マザー	15.0	14.2	-0.8	-0.2
現金等	5.0	4.4	-0.6	-0.2
合計	100.0	100.0	0.0	0.0

※ 各組入マザーファンドの正式名称は4枚目以降をご覧ください。

基準価額の変動要因(円)

	寄与額
国内株式	+349
外国株式	+138
国内債券	-10
外国債券	+34
為替	+24
分配金	0
その他	-22
合計	+513

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・ライブビュー・バランスファンド70（積極型）

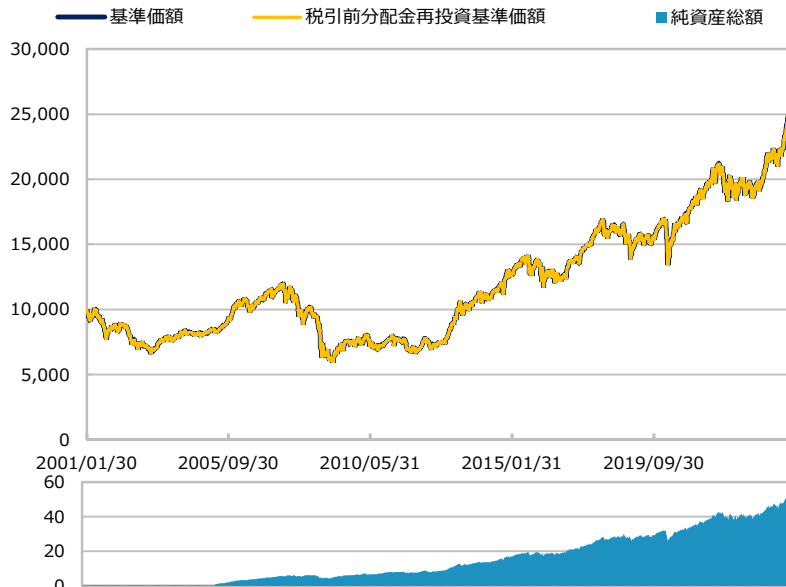
【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

ファンド設定日：2001年01月31日

日経新聞掲載名：LV70

基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	25,427	+776
純資産総額（百万円）	5,498	+149

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

	基準日	ファンド
1 カ月	2024/02/29	3.1
3 カ月	2023/12/29	13.3
6 カ月	2023/09/29	16.6
1 年	2023/03/31	28.8
3 年	2021/03/31	35.1
設定来	2001/01/31	154.3

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第19期	2020/01/30	0
第20期	2021/02/01	0
第21期	2022/01/31	0
第22期	2023/01/30	0
第23期	2024/01/30	0
設定来累計		0

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（%）

	基本配分	当月末	基本配分との差	前月比
株式計	70.0	71.4	+1.4	-0.1
国内株式マザー	40.0	40.6	+0.6	+0.0
外国株式マザー	30.0	30.8	+0.8	-0.1
債券計	25.0	24.7	-0.3	+0.3
国内債券マザー	15.0	14.9	-0.1	+0.1
外国債券マザー	10.0	9.9	-0.1	+0.1
現金等	5.0	3.9	-1.1	-0.2
合計	100.0	100.0	0.0	0.0

※ 各組入マザーファンドの正式名称は4枚目以降をご覧ください。

基準価額の変動要因(円)

	寄与額
国内株式	+521
外国株式	+229
国内債券	-6
外国債券	+26
為替	+34
分配金	0
その他	-29
合計	+776

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・ライフビュー・バランスファンド 30（安定型）/50（標準型）/70（積極型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

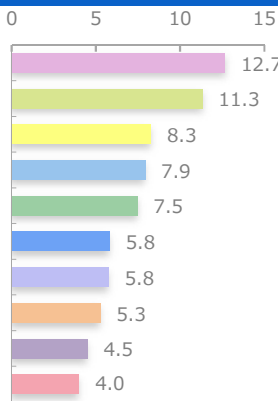
作成基準日：2024年03月29日

※ このページは「国内株式マザー：国内株式マザーファンド（D号）」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）		
	当月末	前月比
株式	97.5	-1.0
先物等	0.0	0.0
現金等	2.5	+1.0
合計	100.0	0.0

騰落率（税引前分配金再投資）（％）		
	基準日	ファンド
1か月	2024/02/29	5.3
3か月	2023/12/29	19.5
6か月	2023/09/29	21.4
1年	2023/03/31	37.9
3年	2021/03/31	41.5
設定来	2001/01/31	270.8

組入上位10業種（％）		
	当月末	前月比
1 電気機器	12.7	-2.3
2 機械	11.3	+0.3
3 情報・通信業	8.3	-0.4
4 輸送用機器	7.9	-0.4
5 卸売業	7.5	+0.2
6 化学	5.8	-0.7
7 その他製品	5.8	+0.8
8 銀行業	5.3	-0.5
9 保険業	4.5	+0.5
10 小売業	4.0	+1.1



※ 業種は東証業種分類です。

組入上位10銘柄（％）			（組入銘柄数 121）
銘柄	業種	比率	
1 トヨタ自動車	輸送用機器	5.2	
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.7	
3 東京エレクトロン	電気機器	3.1	
4 東京海上ホールディングス	保険業	3.0	
5 三菱重工業	機械	2.6	
6 伊藤忠商事	卸売業	2.5	
7 三菱商事	卸売業	2.5	
8 デンソー	輸送用機器	2.5	
9 ディスコ	機械	2.4	
10 第一三共	医薬品	2.3	

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・ライブビュー・バランスファンド 30（安定型）/50（標準型）/70（積極型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

※ このページは「国内株式マザー：国内株式マザーファンド（D号）」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

株式市場は、上昇しました。

上旬は、米国株式市場の上昇などを好感して堅調に始まったものの、日銀が3月中にマイナス金利解除に踏み切るとの見方が広がったことにより米ドル安・円高が進行したことから、下落に転じました。中旬は、金融政策決定会合において日銀はマイナス金利解除を決定したものの、当面は緩和的な金融環境が続く見通しが示され、米ドル高・円安に転じたことを受けて、反発しました。下旬は、FOMC（米連邦公開市場委員会）の決定内容が事前の想定内となり波乱無く通過したものの、高値警戒感から上値を追う展開とはならず、もみ合う展開となりました。業種別では、不動産業、石油・石炭製品、鉱業などが市場をアウトパフォームした一方、海運業、精密機器、医薬品などがアンダーパフォームしました。

<運用経過>

組入比率は概ね90%台半ばで推移させました。

現物株式ポートフォリオでは、三菱重工業、ディスコなどの株価上昇が基準価額に対してプラス寄与しました。一方、第一三共、MARUWAなどの株価下落が基準価額に対してマイナスに影響しました。

現物株式の売買は、2024～25年度の2期平均増益率と株価水準を加味し魅力度が高まった、フジクラ、デンソーなどの買入れを実施しました。

一方、2024～25年度の2期平均増益率と株価水準を加味し魅力度が低下した、ライト工業、日東紡績などの売却を行いました。

<市場見通し>

世界の景気を見ると、中国は停滞が継続している一方、米国は堅調持続、日本・欧州も復調が見込まれます。このように国・地域間でばらつきがあるものの、欧米で金融引き締め局面が終わりつつあり、全体として底堅い推移が予想されます。株式市場は、高値圏でもみ合う展開を想定します。2024年に入り大幅上昇してきたことによる高値警戒感や、為替市場における政府・日銀の市場介入への警戒感が株価の重石になると考えます。一方、企業業績の改善、デフレからの脱却、コーポレート・ガバナンス（企業統治）改革進展などへの期待は大きいことから、下値は固いと考えられます。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友・ライブビュー・バランスファンド 30（安定型）/50（標準型）/70（積極型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

※ このページは「国内株式マザー：国内株式マザーファンド（D号）」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜今後の運用方針＞

アナリスト、ファンドマネージャーによる定性、定量評価の高い銘柄を中心に、ポートフォリオを構築します。個別銘柄選択においては、株価の調整局面を利用して中長期的に有望な銘柄に焦点をあて、割高となった銘柄から割安な銘柄への入替えも行う方針です。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・ライブビュー・バランスファンド 30（安定型）/50（標準型）/70（積極型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

※ このページは「外国株式マザー：外国株式マザーファンド（D号）」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
株式	98.4	-0.7
先物等	0.0	0.0
現金等	1.6	+0.7
合計	100.0	0.0

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド
1か月	2024/02/29	3.4
3か月	2023/12/29	19.0
6か月	2023/09/29	27.3
1年	2023/03/31	51.1
3年	2021/03/31	85.3
設定来	2001/01/31	369.7

組入上位5カ国・地域（％）

	当月末	前月比
1 アメリカ	73.2	+0.5
2 フランス	6.4	-0.0
3 アイルランド	5.3	-0.2
4 スイス	4.0	-0.2
5 イギリス	3.8	-0.1

組入上位5通貨（％）

	当月末	前月比
1 アメリカドル	77.2	-0.3
2 ユーロ	11.6	-0.1
3 スイスフラン	4.0	-0.2
4 イギリスポンド	3.8	-0.1
5 香港ドル	1.9	-0.1

組入上位5業種（％）

	当月末	前月比
1 ソフトウェア・サービス	16.8	-0.9
2 資本財	11.4	+0.4
3 金融サービス	9.9	+0.2
4 半導体・半導体製造装置	9.8	+0.1
5 医薬品・バイオテクノロジー	9.6	-0.6

※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 84）

銘柄	国・地域	業種	比率
1 エヌビディア	アメリカ	半導体・半導体製造装置	7.1
2 マイクロソフト	アメリカ	ソフトウェア・サービス	4.7
3 アルファベット クラスA	アメリカ	メディア・娯楽	4.5
4 イーライリリー	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	3.4
5 メタ・プラットフォームズ	アメリカ	メディア・娯楽	1.9
6 JPMorgan Chase & Company	アメリカ	銀行	1.9
7 サービスナウ	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.7
8 インチュイト	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.7
9 フォーティネット	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.7
10 シノプシス	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.6

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

三井住友・ライブビュー・バランスファンド 30（安定型）/50（標準型）/70（積極型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

※ このページは「外国株式マザー：外国株式マザーファンド（D号）」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

米国株式市場は上昇しました。月初、アップルやテスラなど、中国での販売伸び悩み懸念から下落する銘柄が見られました。中旬にかけても、CPI（消費者物価指数）が予想をやや上回る内容だったことなどから、上値が重くなる局面がありました。ただし、FOMC（米連邦公開市場委員会）を経て、金融緩和策への転換に変化がないことや、堅調な景気動向に対する安心感が支援材料となり、その後は高値を追う展開となりました。またエヌビディアが新製品を発表するなど、生成AI関連市場を巡る業績成長機会の広がりも、引き続き相場の材料となりました。

欧州株式市場は上昇しました。ECB（欧州中央銀行）の利下げ期待が高まり、景気停滞の懸念が緩和したことが主な上昇要因となりました。また、スイス中銀が利下げを実施したことや、米国のFOMCで緩和転換のスタンスに大きな変化がなかったことも好感されました。

<運用経過>

地域配分では、北米、環太平洋のアンダーウェイト（UW）、欧州のオーバーウェイト（OW）を維持しました。北米は長期的な成長性、安定性を評価していますが、バリュエーション（投資価値評価）の相対的な割高感からUW、環太平洋も中国の不動産・金融リスクの高まりを懸念して、UWを継続しました。欧州は金融引き締め政策の転換、グローバル景気の底打ち、相対的な割安感から、OWを維持しました。個別銘柄では、引き続き安定したCF（キャッシュフロー）成長が期待できるクオリティグロースの銘柄（安定的な高成長が期待できる銘柄）を中心に投資を行いました。個別銘柄では、年初から大幅上昇しているエヌビディアの一部売却、EV（電気自動車）事業の成長率の低下と競争激化を懸念して、自動車部品のアプティブを売却しました。一方で、従来の中期的な成長モメンタム（勢い）を取り戻しつつあることを評価して衛生サービスのエコラボ、高付加価値サービスの浸透と安定的なCF創出力を評価し、決済フィンテックを提供するファイサーブを購入しました。

<市場見通し>

米国株式市場では、企業業績は大型テクノロジー企業で概ね好調が持続しており、製造業でも回復が期待されます。インフレの再加速が見られない限り、こうした業績の回復に伴って、株式市場はレンジが切り上がる動きを予想します。ただし、金融緩和転換や企業業績の回復は徐々に株価に織り込まれつつあり、大統領選に向けた政治的不透明感の高まりが警戒される場面も想定されることから、上昇基調は緩やかにとどまるとみています。欧州株式市場も、米国対比で深刻だった物価上昇への対処が目途が付きつつあり、中国の政策対応や域内景気の安

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント Be Active.

三井住友・ライブビュー・バランスファンド 30（安定型）/50（標準型）/70（積極型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

※ このページは「外国株式マザー：外国株式マザーファンド（D号）」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

定化が支援材料となることから上昇の維持は可能とみています。

<今後の運用方針>

地域配分では、北米、環太平洋をUW、欧州をOWとします。北米は中長期的な業績成長性の魅力度が高いものの、バリュエーション上の割高感からUW、環太平洋アジアは中国リスクの高まりや豪州の割高感からUW。欧州は景気底打ち期待、バリュエーションの相対的な割安感、欧米の金融政策転換から、OWとします。業種では、金利のピークアウトや景気の底打ちを想定して、情報技術や消費循環のOWを継続します。一方で、景気底打ち局面において出遅れが懸念される公益、不動産、消費安定のUWを継続します。銘柄選択においては、安定したCF成長が期待できるクオリティグロースの銘柄を中心に投資を行います。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント Be Active.

三井住友・ライフビュー・バランスファンド 30（安定型）/50（標準型）/70（積極型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

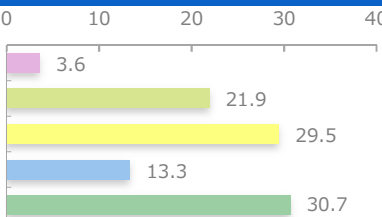
※ このページは「国内債券マザー：国内債券マザーファンド（D号）」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
債券	98.9	+0.0
先物等	0.0	0.0
現金等	1.1	-0.0
合計	100.0	0.0

残存構成比率（％）

	当月末	前月比
1年未満	3.6	-0.1
1-3年	21.9	-0.7
3-7年	29.5	+9.7
7-10年	13.3	-6.3
10年以上	30.7	-2.6

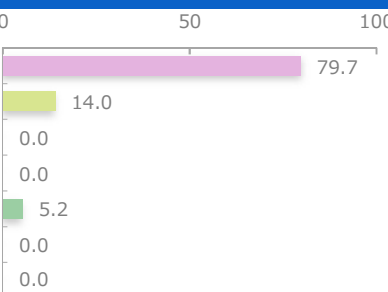


騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド
1か月	2024/02/29	-0.2
3か月	2023/12/29	-0.6
6か月	2023/09/29	0.4
1年	2023/03/31	-2.1
3年	2021/03/31	-4.4
設定来	2001/01/31	31.0

種別構成比率（％）

	当月末	前月比
国債	79.7	+0.5
地方債	14.0	-0.3
政府機関債	0.0	0.0
金融債	0.0	0.0
事業債	5.2	-0.1
円建外債	0.0	0.0
その他債券	0.0	0.0



ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン（％）	0.6	-0.0
残存年数（年）	8.9	-0.6
デュレーション（年）	8.2	-0.4
直接利回り（％）	0.6	-0.0
最終利回り（％）	0.6	-0.0

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10銘柄

（組入銘柄数 82）

銘柄	クーポン（％）	残存年数（年）	比率（％）
1 362 10年国債	0.100	7.0	6.6
2 156 5年国債	0.200	3.7	5.4
3 457 2年国債	0.100	1.8	5.1
4 458 2年国債	0.200	1.9	4.9
5 166 5年国債	0.400	4.7	4.5
6 373 10年国債	0.600	9.7	4.0
7 149 20年国債	1.500	10.2	3.2
8 363 10年国債	0.100	7.2	3.0
9 25-5 愛知県15年	1.339	4.2	3.0
10 199 住宅支援機構	0.200	2.8	2.4

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・ライブビュー・バランスファンド 30（安定型）/50（標準型）/70（積極型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

※ このページは「国内債券マザー：国内債券マザーファンド（D号）」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

国内の長期金利（10年国債利回り）は、小幅に上昇しました。

上旬から中旬にかけて、日銀によるマイナス金利解除やイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）政策撤廃などの観測報道が相次いだことから、長期金利は上昇基調となりました。また、春闘で賃上げが昨年を上回る見込みとなったことも、金利の上昇要因となりました。3月18日、19日に開催された日銀金融政策決定会合では、日銀当座預金付利金利を0.1%に引き上げることで、無担保コール（金融機関同士のごく短期の資金の貸借）翌日物金利を0~0.1%程度で推移するよう促すことを決定したほか、イールドカーブ・コントロール政策を撤廃しました。しかし、結果が事前報道通りの内容であったことに加え、これまでと同程度の金額で長期国債の買入れを継続する方針が示されたことから、月末にかけて金利は低下基調となりました。

<運用経過>

デュレーション（投資資金の平均回収期間：金利の変動による債券価格の感応度）は、金融政策変更の可能性が高まったという判断のもと、月中にショート（短め）幅を拡大しました。その後、政策変更を織り込む形で金利上昇が進んだことから一時ショート幅を縮小しましたが、政策変更後の一段の金利上昇リスクを考慮し、再度ショート幅を拡大しました。残存期間構成は、月前半は主に中期ゾーンをアンダーウェイト（UW）、月後半は主に超長期ゾーンをUWとしました。種別セクター戦略では、地方債のオーバーウェイト（OW）を継続しました。

<市場見通し>

国内景気は足踏みしているものの、先行きはインフレ鈍化や賃金上昇が内需のサポートとなり、緩やかな回復基調に戻る見通しです。CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）の前年比伸び率は、政策効果によって+2%台に低下しており、先行きも輸入物価を起点とするコストプッシュ圧力の弱まりにより緩やかに減速基調が続く見通しです。日銀はマイナス金利を解除しましたが、さらなる利上げへの警戒がくすぶっていることや先行きの国債買入れ減額の可能性があることから、国内金利へは上昇圧力がかかりやすいものと想定します。一方で、先行きの利下げを意識した欧米金利の動向が、国内金利の大幅な上昇を抑制する見込みです。

<今後の運用方針>

上記の見通しのもと、デュレーションはベンチマーク対比でショートとし、金利水準や外部環境、需給環境の変化に合わせて調整します。残存期間構成は、デュレーション方針やイールドカーブ（利回り曲線）の形状に応じて調整します。種別セクター戦略では、地方債のOWを継続します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント Be Active.

三井住友・ライブビュー・バランスファンド 30（安定型）/50（標準型）/70（積極型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

※ このページは「外国債券マザー：外国債券マザーファンド（A号）」の情報を記載しています。
 ※ 2011年5月11日以降、外国債券の組入マザーファンドは（D号）から（A号）に変更しております。

資産構成比率（%）

	当月末	前月比
債券	97.8	-0.2
先物等	0.0	0.0
現金等	2.2	+0.2
合計	100.0	0.0

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

	基準日	ファンド
1か月	2024/02/29	1.4
3か月	2023/12/29	4.2
6か月	2023/09/29	8.3
1年	2023/03/31	15.0
3年	2021/03/31	16.7
設定来	2001/01/31	186.5

ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン（%）	2.1	+0.2
残存年数（年）	8.2	+0.1
デュレーション（年）	6.7	+0.0
直接利回り（%）	2.3	+0.1
最終利回り（%）	3.8	-0.1

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
 ※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5通貨（%）

	当月末	前月比
1 アメリカドル	47.6	-2.7
2 ユーロ	33.3	+0.2
3 イギリスポンド	8.2	+1.9
4 中国元(オフショア)	3.0	+0.4
5 オーストラリアドル	2.1	+0.0

組入上位5カ国・地域（%）

	当月末	前月比
1 アメリカ	42.8	-4.8
2 スペイン	18.5	+2.8
3 フランス	10.5	-2.5
4 イギリス	8.2	+1.9
5 日本	6.9	+2.1

組入上位10銘柄

（組入銘柄数 66）

銘柄	クーポン（%）	残存年数（年）	比率（%）
1 アメリカ国債	1.375	7.6	6.6
2 アメリカ国債	2.750	3.9	4.9
3 スペイン国債	1.500	3.1	4.8
4 アメリカ国債	1.125	16.1	3.8
5 フランス国債	0.000	5.7	3.4
6 イギリス国債	3.250	8.8	3.2
7 アメリカ国債	0.625	6.1	3.1
8 アメリカ国債	0.500	3.2	3.0
9 アメリカ国債	1.375	4.6	2.9
10 イギリス国債	0.500	4.8	2.9

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・ライブビュー・バランスファンド 30（安定型）/50（標準型）/70（積極型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

※ このページは「外国債券マザー：外国債券マザーファンド（A号）」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

米国では、長期金利（10年国債利回り）は小幅に低下しました。上旬は、ISM（全米供給管理協会）製造業景況感指数などの弱い景気指標を背景に、金利は低下しました。中旬にかけては、CPI（消費者物価指数）などの物価指標が市場予想を上回ったことで、金利は上昇に転じましたが、FOMC（米連邦公開市場委員会）で年内3回としていた利下げ予想が据え置かれたことなどから、再び金利は緩やかに低下しました。

ユーロ圏では、長期金利（ドイツ10年国債利回り）は低下しました。米金利に連動する動きとなったものの、ECB（欧州中央銀行）理事会でインフレ予想が下方修正されたことや、ECB高官からハト派（景気を重視する立場）的な発言がみられたことなどを背景に、金利は低下しました。

（為替）米ドル/円は、一進一退となりました。上旬は、低調な米景気指標や日銀が3月の会合でマイナス金利政策の解除に動くとの観測から、米ドル安・円高となりました。中旬以降は、米金利上昇に加え、日銀がマイナス金利解除後も緩和的な金融環境を当面継続する考えを示したことから、米ドル高・円安となりました。月末にかけては、政府・日銀による為替介入が警戒される中、もみ合い推移となりました。

ユーロ/円は、一進一退となりました。上旬は、ハト派的なECB理事会や日銀のマイナス金利解除の見通しから、ユーロ安・円高が進みました。中旬以降は、日銀がマイナス金利解除後も緩和的な金融環境を当面継続する考えを示したことから、ユーロ高・円安となりました。

<運用経過>

債券国別配分は、ユーロ圏内において投資制限上の理由から格付けの低いイタリアのアンダーウェイト（UW）を継続する一方、フランスやスペインをオーバーウェイト（OW）としました。

通貨配分は、米ドルのユーロや中国元に対するOWに加え、米ドルの英ポンドに対するOWを追加しました。

デュレーション（投資資金の平均回収期間：金利の変動による債券価格の感応度）は、米国と英国で長めを継続し、ユーロ圏は長めから中立へ変更しました。

残存構成は、米国では中期をOWからニュートラルウェイト（NW）へ変更し、長期OW、超長期UWは維持しました。ユーロ圏は長期OWをNWへ変更し、中期OW、超長期UWは維持しました。英国は中期NWをOWへ変更し、長期OW、超長期UWを維持しました。

種別配分は、国債以外の債券の組入れを継続しました。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友・ライブビュー・バランスファンド 30（安定型）/50（標準型）/70（積極型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

※ このページは「外国債券マザー：外国債券マザーファンド（A号）」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場見通し>

米国では、雇用を中心に景気が底堅く推移しているものの、累積した利上げ効果によるインフレの鈍化と景気減速が徐々に進むことで、FRB（米連邦準備制度理事会）による利下げの開始が想定されることから、金利は緩やかに低下する展開を予想します。

ユーロ圏では、底堅い労働市場や賃金上昇が続いているものの、累積した利上げによる影響からインフレの鈍化と景気減速が進むことで、ECBによる利下げ開始が想定されることから、金利は緩やかに低下する展開を予想します。

（為替）米ドル/円は、FRBによる利下げ開始や日銀による将来の利上げが意識されることから、下落圧力がかかる展開を予想します。ただし、日銀は緩和的な金融環境を当面維持すると予想されるため、緩やかな米ドル安・円高を予想します。

ユーロ/円は、ECBによる利下げ開始や日銀による将来の利上げが意識されることから、下落圧力がかかる展開を予想します。ただし、日銀は緩和的な金融環境を当面維持すると予想されるため、緩やかなユーロ安・円高を予想します。

<今後の運用方針>

債券国別配分は、ユーロ圏内で格付けの低いイタリアのUWを継続し、フランスやスペインをOWとします。

通貨配分は、景況感格差や金融政策の方向性の違いなどを踏まえて機動的に対応します。

デュレーションや残存構成は、景気や金融政策の動向などを踏まえて機動的に対応します。

種別配分は、利回りの向上を図る目的で国債以外の債券の組入れを継続します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友・ライフビュー・バランスファンド 30（安定型）/50（標準型）/70（積極型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

ファンドの特色

1. 主として内外の株式および公社債に投資を行うことにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指した運用を行います。
2. 以下の基本資産配分比率を基準として、各マザーファンドおよび短期金融資産等に投資を行います。

【各ファンドの基本資産配分比率】

[30（安定型）][50（標準型）][70（積極型）]

国内株式：	20%	30%	40%
外国株式：	10%	20%	30%
国内債券：	45%	30%	15%
外国債券：	20%	15%	10%
短期金融資産：	5%	5%	5%

- 信託期間中は、原則として上記の基本資産配分±5%の範囲の組入比率を維持するものとし、基本資産配分と運用により変動する実際の資産構成比率との乖離は、原則として一定期間毎に見直し、上記基本資産配分に準じた構成比率に修正を行うものとします。
- 急激な値動きにより特定の資産の構成比率と基本資産配分との乖離が5%を超えた場合には、各資産の構成比率が基本資産配分±5%の範囲に収まるよう、各資産の組入比率を調整するものとします。

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

※ 各ファンドの略称として、以下のようにいうことがあります。

- 三井住友・ライフビュー・バランスファンド30（安定型）⇒30（安定型）
- 三井住友・ライフビュー・バランスファンド50（標準型）⇒50（標準型）
- 三井住友・ライフビュー・バランスファンド70（積極型）⇒70（積極型）

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の**投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた**利益および損失は、すべて投資者に帰属**します。
- 投資信託は**預貯金と異なります**。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 債券市場リスク

【債券の価格の下落は、基準価額の下落要因です】

一般に債券は内外の経済情勢等の影響による金利の変動を受けて価格が変動します。通常、金利が上昇すると債券価格は下落します。また、格付けが引き下げられる場合も債券価格が下落するおそれがあります。債券価格の下落はファンドの基準価額が下落する要因となります。なお、価格の変動幅は、債券の種類、格付け、残存期間、利払いのしくみの違い等により、債券ごとに異なります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・ライフビュー・バランスファンド 30（安定型）/50（標準型）/70（積極型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

投資リスク

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

【円高は基準価額の下落要因です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

三井住友・ライフビュー・バランスファンド 30（安定型）/50（標準型）/70（積極型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2001年1月31日設定）

決算日

毎年1月30日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配金額を決定します。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※ 販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
 - 公募株式投資信託は税法上、NISA（少額投資非課税制度）の適用対象であり、2024年1月1日以降は一定の要件を満たした場合に限りNISAの適用対象となります。
- 30（安定型）： 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。
- 50（標準型）： 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。
- 70（積極型）： 配当控除の適用が可能です。益金不算入制度の適用はありません。

三井住友・ライフビュー・バランスファンド 30（安定型）/50（標準型）/70（積極型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に以下の率を上限として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
 - 30（安定型）：0.99%（税抜き0.90%）
 - 50（標準型）：1.21%（税抜き1.10%）
 - 70（積極型）：1.43%（税抜き1.30%）
- 信託財産留保額
- ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
各ファンドの純資産総額に以下の率を乗じた額です。
 - 30（安定型）：年0.99%（税抜き0.90%）
 - 50（標準型）：年1.21%（税抜き1.10%）
 - 70（積極型）：年1.43%（税抜き1.30%）
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

三井住友・ライフビュー・バランスファンド 30（安定型）/50（標準型）/70（積極型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 受益者が確定拠出年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合は、所得税および地方税がかかりません。なお、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。
- ※ NISA（少額投資非課税制度）、ジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）をご利用になる場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。また、販売会社での専用口座の開設等、一定の要件があります。
2024年1月1日以降は、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。また、2024年1月1日以降は、税法上の要件を満たした公募株式投資信託等を購入した場合に限り、非課税の適用を受けることができます。なお、ジュニアNISAで新規の購入ができなくなります。
詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※ 上記は、2023年8月末現在のものです。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社

ファンドの運用の指図等を行います。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ホームページ： <https://www.smd-am.co.jp>

コールセンター： 0120-88-2976 【受付時間】 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）

受託会社

ファンドの財産の保管および管理等を行います。

三井住友信託銀行株式会社

販売会社

ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。

三井住友・ライブビュー・バランスファンド 30（安定型）/50（標準型）/70（積極型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年03月29日

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	日本一般社団法人 投資顧問業協会	金融先物取引業協会	一般社団法人 投資信託協会	備考
a uカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○		
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○	○		○		
岡三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第53号	○	○	○	○		※1
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	○			○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○		
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第8号	○					
株式会社イオン銀行（仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第633号	○					※2
株式会社SBI新生銀行（SBI証券仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○			○		※1 ※3
株式会社SBI新生銀行（マネックス証券仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○			○		※1 ※2
株式会社富山第一銀行	登録金融機関 北陸財務局長（登金）第7号	○					
三井住友DSアセットマネジメント株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号		○	○		○	

備考欄について

※1：ネット専用 ※2：委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社 ※3：委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に關し述べられた運用方針・市場見直しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用

